



# さかいぎ

チャレンジアップ! かがやく自分

11月号

令和3年10月29日  
横浜市立境木小学校  
校長 清見克明

## 子どもたちを守るために

副校長 本田昌彦

「チャラン～チャラン♪ チャラン～チャラン♪」

カタカナ表記ですと緊張感は感じられませんが、携帯電話から流れてきた「Jアラート 緊急地震速報」を、久しぶりに聞きました。にわかに緊張感が高まり、とっさに、うたた寝をしていた布団を跳ね上げ、「地震が来る!」と身構えました。一瞬の間があり、大きな揺れが襲ってきました。そして、本棚の上のものが落ちてきたのです。幸いなことに大きな被害もなく、家族の無事を確かめ、すぐに祖母宅と埼玉に住んでいる娘に連絡をとり、無事を確認しました。

これは、10月7日(木)22時41分頃に関東地方を襲った震度5強(横浜地方は震度5弱)の地震に対して、私自身がとった行動です。

地震が起きた瞬間の自分の行動を振り返ってみると、一見冷静に対応をしていたように思われますが、肝心なことがすべて抜け落ちていました。まずは、自分の身を守ることです。頭を守った記憶が全くありません。次に火の始末です。電話をかけに1階に下りましたが、台所を一度も見ませんでした。10月7日以前にも、日本各地で大きな地震が起きていることをニュースで確認していて、関東地方にも起こるかもしれないと、漠然と予想はしていましたが、自分事としてとらえていなかったと反省しきりです。

地震だけではありません。10月1日は、台風16号が関東に最接近となり、児童を安全に下校させるために、刻一刻と変わる、さまざまな情報を集めながら、少しでも風や雨が弱まる時間帯を探るなど、対応に多くの時間を費やしました。そして、10月20日は、阿蘇山の噴火と火砕流です。自然災害は避けることができません。

子どもたちの安全を守るためには、どうしたらよいかを改めて振り返りました。子どもたちにも自分事として、必ず自然災害はやってくるという心構えをもたせる。そして、日々の備えや訓練にしっかり取り組ませなければならない、小学生でも自分の身を守る術を着実に身に付けさせたい、という思いを強くもちました。

災害に備えるための、よいお手本が、実はすぐそばにありました。10月3日(日)に行われた地域防災訓練です。今年度も新型コロナウイルス感染症予防を考慮し、地域の皆様が参加した形ではなく、各地域の運営委員の皆様、約50名が参加しました。それでも、今までの訓練の映像を見たり、防災備蓄庫の中を確認したり、そして、区役所と学校を結ぶ防災無線電話の通話訓練を実際に行ったりと、従前の訓練には及びませんが、充実した内容でした。より多くの皆様が、いざというときの準備ができたと思われまます。

いつも言われることですが、災害はいつ起こるか分かりません。日頃の備えを子どもたちと一緒にご家族で、ぜひ話し合われてください。学校でも、子どもたちを守るための備えと訓練を重ねてまいります。